公私空間としてのオープンガーデンの実態に関する研究
―兵庫県三田市を事例として―

法政大学大学院政策創造研究科教授　**上山　肇**
法政大学大学院政策創造研究科　**河島　敬**

要旨
オープンガーデンの活動は1998年頃から始まり、以降、地域内外のコミュニティ形成に大きな役割を果たしている。本稿では、初期の段階から積極的に取り組んできた兵庫県の三田グリーンネットを対象に、公私空間におけるオープンガーデンの実態と持続可能性について探るため、会員にアンケート調査を行った。その結果、1）オープンガーデン活動の参加者は、その活動に大変満足しており、同時に地域の交流も促進していること、2）参加者の高齢化が、オープンガーデン活動を継続する上で大きな課題になっていること、3）オープンガーデンは地域の資源として活用され、地域活性化に寄与していること　などがわかった。

キーワード：オープンガーデン、公私空間、コミュニティ形成、地域活性化、三田市

A Study on the Reality of the Open Garden as Public and Personal Space
―A Case of Sanda City, Hyogo Pref.―

Hosei Graduate School of Regional Policy Design Prof.
Hajime Kamiyama
Hosei Graduate School of Regional Policy Design
Takashi Kawashima

Abstract
The “open garden activity” began around 1998 and plays a big role in community formation in the areas inside and outside of the country. We conducted a questionnaire survey about the reality and possibility of continuing the “open garden” in Sanda Green Net. The main results are as follows. 1) Participants in the open garden activity are very happy with the activity. And people's interaction is being promoted in the area. 2) The aging of participants has become a major issue in continuing open garden activities. 3) Open gardens are utilized as local resources and contribute to regional activation.

Keyword: open garden, public and personal space, community formation, regional activation, Sanda city

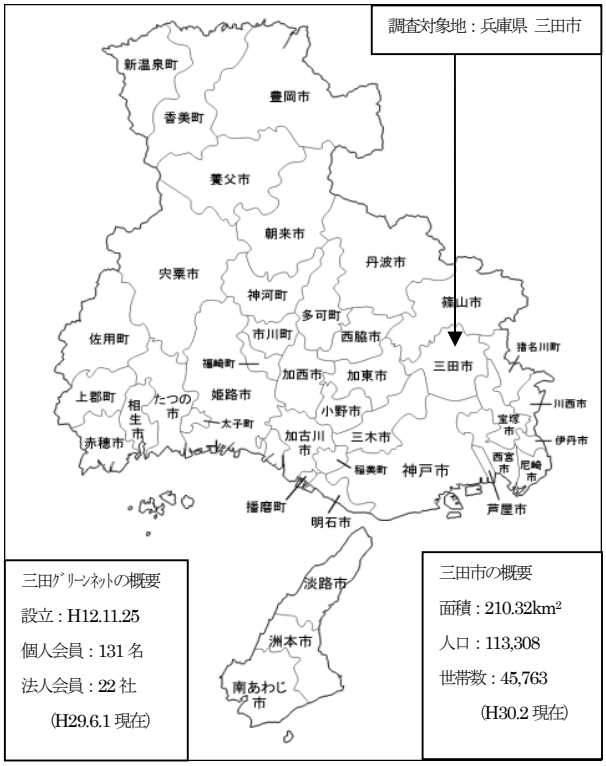
1. はじめに

オープンガーデンとは個人の庭（私的空間）を一般に公開する活動のことで、参加者が丹精込めてつくった（演出した）庭園を一般に公開するものである。その発祥はイギリスで、看護や医療、庭園保護への募金活動を目的に始まった。

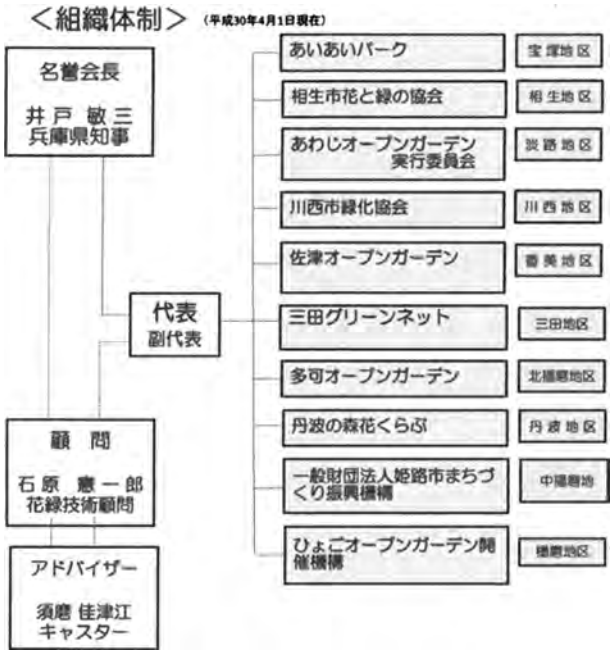
日本においては1998年頃から始まり、現在では日本各地で行われるようになったが、活動の目的は、まちづくりや交流、観光、趣味の延長や集客、募金等であり、日本独自の活動としてイギリスとは違う形態で広がってきている。

そうした背景の中にあって、日本において個人の庭という閉鎖された私的空間をオープンガーデンという形で利用・公開することで、今までにない地域活性化の活用手法としての新たな可能性を示せるものと考える。

本研究では長年活動を続けている兵庫県三田市の三田グリーンネットの活動を事例に、主に個人の庭という私的空間を活用しているオープンガーデン活動の実態から、活動による効果と活動を継続する上での問題・課



図－1 兵庫県における三田市の位置と概要，三田グリーンネットの概要



図－2 兵庫オープンガーデンネットワークの組織体制

（出典：公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター）

題、対処方法について体系的に整理し、今後の対応策を提案することを目的としている。三田市の位置と概要、三田グリーンネットの概要を図に示す（図－1）。

オープンガーデン活動については、行政の支援を受けて行っているところが多いが、本研究で取り上げる三田グリーンネットは兵庫オープンガーデンネットワークに属しており、活動団体として独自に活動しているところに特徴がある（図－2）。

2. 研究の方法

2.1 先行研究と本研究の意義

オープンガーデンに関する研究は2000年に入りこれまで、相田ら（2002）の英国で発祥したオープンガーデンの経緯と活動の内容や意義を明らかにした研究、野中（2002）の長野県小布施町を事例としたオープンガーデンの特徴と課題、鑑賞者の行動特性を明らかにした研究などがある。また、平田ら（2003）はオープンガーデンの地域経済への波及効果量を探り、地域経済の活性化にも大きな可能性があることを明らかにしている。更に平田（2004）は兵庫県を事例に活動が活性化していくための行政支援のあり方に着目し、オープンガーデン経験者が行政側に対して、一般的に行政支援として考えがちである「資金援助」よりも開催運営面での支援やＰＲでの支援等を求めていることなどを明らかにしている。

その後、オープンガーデン実施者の意識や行動に関する研究が行われるようになり、三分一ら（2007）のオープンガーデン実施者の開放性に関する意識構造を検討した研究や岩朝ら（2007）の会員の意識・行動の変化を探った研究が出現している。特に岩朝らは、本稿で事例としている三田市におけるオープンガーデンの活動と会員の意識・行動の変化をその研究で明らかにした。この研究では、活動の推移で規模や知名度を上げていること、会員数やオープンガーデン実施軒数においては停滞気味であること、その一方で、属性別での意識・行動の変化の違いはほぼなく、庭の公的役割意識の増大や庭空間の緑量の増加などがみられ、それにはオープンガーデン実施及びそれに関連した研修や視察への参加が起因していること、また、個人で行う園芸活動より団体で行う方が庭の公的役割意識は高いこと等を明らかにしている。

更に、野中（2006）による緑のイベント時におけるオープンガーデンの位置づけをした研究や朴ら（2010）のオープンガーデン活動におけるきっかけとその期間から活動実態の継続性を探ったものがある。

このようにオープンガーデンに関しては様々な角度から研究されてきた。相田らの研究では、私的な空間である庭園の公共性に関するオープンガーデンの可能性を再考し、平田や岩朝らは兵庫県三田市を事例に行政支援、

会員の意識・行動の変化に着目して調査・研究を行った。しかし、彼らが調査した時点から既に10年以上が経過した現在、活動会員の高齢化の問題が更に進んでいる。今後、オープンガーデン活動を維持・継続していくことを視野に入れ、現在どのような状況にあるのかを知り、オープンガーデン活動の今後の可能性を探っているところに本研究の意義がある。

2.2　研究方法

本研究を進めるにあたり、兵庫県全体のオープンガーデンの取り組み状況を把握するため、兵庫オープンガーデンネットワーク事務局及びネットワークに参加している複数団体（川西地区、宝塚地区）、その他（神戸市公園緑化協会、芦屋市都市建設部公園緑地課）へのヒアリング調査を別途実施している（図－2）。

特に参加地区の中で三田市については、自治体（三田市）へのヒアリング調査、三田グリーンネット事務局へのヒアリング調査及びアンケート調査、フィールドワークを行っているが、本稿では運営面において市民により積極的に活動してきた三田グリーンネット参加者へのアンケート調査についてまとめている。

1）アンケート調査の目的

オープンガーデンがもつ特性を「人との交流の場」、「地域の魅力資源」、「私的空間の公開の機会」と捉え、オープンガーデンの現時点での評価を確認し、公開者の負担と自治体の支援に分け、オープンガーデンの実態と課題を洗い出すことを調査目的とした。

2）アンケート調査の方法

本研究では兵庫オープンガーデンネットワークに属している三田グリーンネットを取り上げるが、三田グリーンネットは活動団体として独自に活動しているところに特徴がある。

①対象：三田グリーンネットの会員　②調査期間：2018年8月1日～2018年8月30日　③実施人数：120人（全会員のうち活動会員）　④調査方法：アンケート用紙を三田グリーンネットより返信用封筒を同封して発送し回収

3）調査内容

主な質問内容は、①回答者属性：性別・年代・居住地・居住年数　②活動内容：入会した経緯・活動参加内容　③オープンガーデン：実施の有無・敷地面積・訪問者数・実施内容・公開日・評価・持続性の意見　である。

3. 結果

調査結果は以下の通りである。三田グリーンネット事務局の協力を得て行ったが、アンケート配付数120件に対して、回収数68件（回収率56.6%）であった。

3.1　三田グリーンネットに関する基礎情報

1）回答者の性別・年代・居住地域・敷地面積

回答者全体の男女比、オープンガーデン参加者（私庭を公開している会員）、非参加者それぞれの男女比共に女性の比率が高い（表－1）。

回答者全体の年代別で回答者を見てみると、30代以下の回答は無く、40代が4人（6%）、50代が10人（15%）、60代が29人（43%）、70代以上が25人（37%）と60代以上の年代が80%を占めている（表－2）。

居住地については、回答者全体で三田市が44人（65%）、神戸市が17人（25%）、京田辺市が5人（7%）、その他地域が2人（3%）であった（表－3）。

オープンガーデンの参加者の敷地面積は、現在実施し

表－1　回答者の性別

（人）

	男性	女性	計
会員	16	52	68
	24%	76%	100%
参加者	11	28	39
	28%	72%	100%
非参加者	5	24	29
	17%	83%	100%

（上段：度数、下段：構成比）

表－2　回答者の年代

（人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
会員	0	0	0	4	10	29	25
	0%	0%	0%	6%	15%	43%	37%
参加者	0	0	0	0	6	18	15
	0%	0%	0%	0%	15%	46%	38%
非参加者	0	0	0	4	4	11	10
	0%	0%	0%	14%	14%	38%	34%

（上段：度数、下段：構成比）

表－3　回答者の居住地域

（人）

	三田市	神戸市	京田辺市	その他
会　員	44	17	5	2
	65%	25%	7%	3%
参加者	23	12	4	0
	59%	31%	10%	0%
非参加者	21	5	1	2
	72%	17%	3%	7%

（上段：度数、下段：構成比）

ている参加者では201㎡～250㎡と300㎡～がそれぞれ12件と多く、次いで251㎡～300㎡の8件となっている。一方、過去に実施していたと回答した人の敷地面積は151㎡～200㎡が多い結果となった。

2)「入会年」と「入会した経緯」,「参加している活動」

三田グリーンネットは2000年に設立されている。設立時、会員数は153（個人会員131名、法人会員22社）であったが、毎年3名程の新規入会者やオープンガーデン参加者がいることがわかった。回答者全員で見てみると、「庭づくりを楽しむ・人と知り合う」が32%と一番多く、次に「庭づくりに関する情報収集」18%、「人に勧められて」16%、「三田グリーンネットの活動に参加するため」16%、「町の景観や環境をよくするため」11%と続く。

オープンガーデン参加者で見てみると、「庭づくりを楽しむ人と知り合う」が31%と一番多く、「人に勧められて」20%、「三田グリーンネットの活動に参加するため」16%、「庭づくりに関する情報収集」18%、「町の景観や環境をよくするため」11%と続く。非参加者では、「庭づくりを楽しむ人と知り合う」が一番多く回答総数の33%、次いで「庭づくりに関する情報収集」24%、「三田グリーンネットの活動に参加するため」13%、「人に勧められて」13%、「町の景観や環境をよくするため」10%と続く。これらの結果から「庭づくりを楽しむ人と知り合う」という「人との交流の場」としての役割が大きいことがわかる。

会員の活動状況は「オープンガーデンに関する活動」が一番多く、次に「研修会・講習会」、「交流会」、「視察・見学会」となっている。

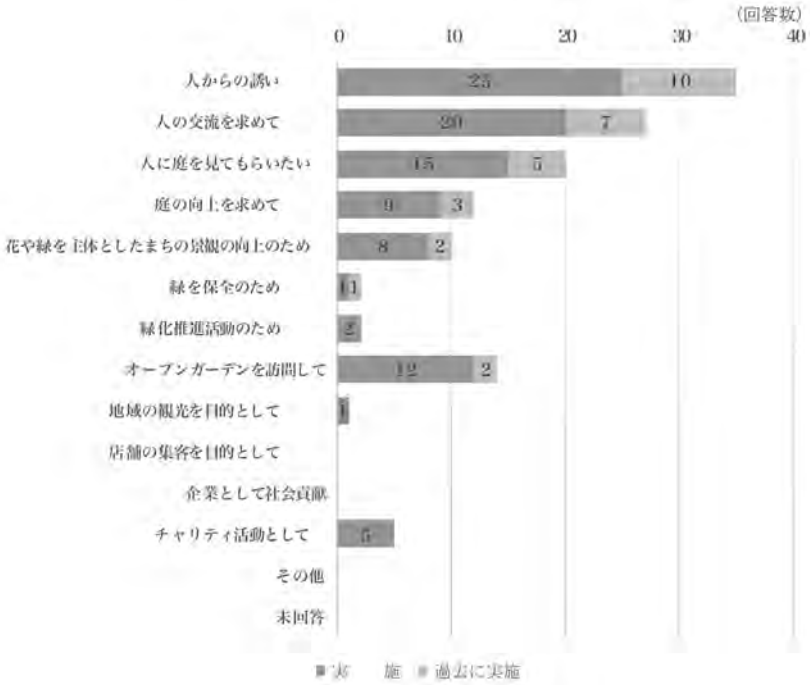
3.2　オープンガーデンに関して

1）オープンガーデン活動のきっかけと状況

(1) 回答者68人のうち、「実施している」が39人（58%）、「過去に実施していた」が12人（18%）、「実施していない」が15人（23%）いた（「未回答」2人（1%））。過去に実施していたが何らかの理由で参加をやめて、その後も継続して会員でいる人が一定数存在することがわかった。

(2) オープンガーデン公開期間中（例年、5月の4日間）の訪問者数は101人～200人と回答している人が、現在実施している参加者では13人（33%）で、過去に実施していた参加者3人（25%）と一番多い結果となった。現在実施していて訪問者が301人以上来る参加者が10件（25%）あることもわかった。

(3) オープンガーデン活動を実施した（過去に実施していた）ことのある該当者51人のうち、「実施のきっか



図－3　オープンガーデンを実施したきっかけ

け」で一番多かったのは「人からの誘い」35 人（69%）で、次いで「人の交流を求めて」27 人（53%）、「人に庭を見てもらいたい」20 人（39%）、「オープンガーデンを訪問して」14 人（27%）、「庭の向上を求めて」12 人（24%）であった。ここからも「人からの誘い」と同様に「人との交流」も大きな要素となっていることがわかる（図－3）。

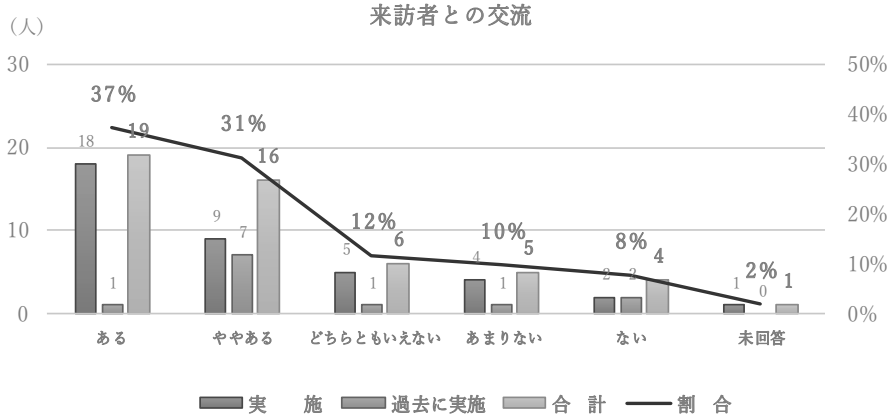
2）人との交流

(1)会員同士の交流は、「ある（45%）」と「ややある（43%）」で合わせて 88%が何らかの形で「ある」と回答しており、会員同士の交流が認められる。

(2) 他のオープンガーデン実施団体との交流では、「ある（17%）」と「ややある（31%）」とで合わせて 48%が「ある」と回答している。「あまりない」と回答しているのが 25%、「ない」と回答しているのが 17%で合わせて 42%あり、実施団体との交流は回答者によってばらつきがみられた。

(3) オープンガーデン来訪者との交流は、「ある（37%）」と「ややある（31%）」とで合わせて 68%が「ある」と回答しており、来訪者との交流は「ある」といえる（図－4、表－4）。

(4) オープンガーデンをきっかけとした近隣住民との交流は「ある」と回答したのが 31%、「ややある」と回答したのが 45%で合わせて 76%が「ある」と回答しており、近隣住民との交流に役立っていることがうかがえる（図－5、表－5）。

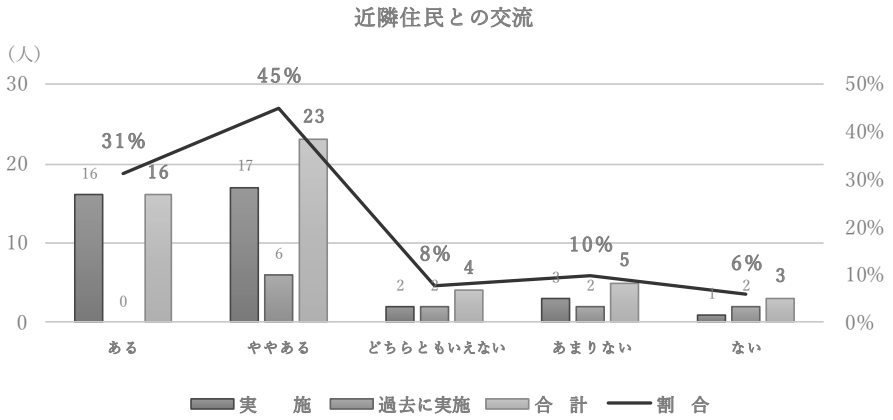


図－4 来訪者との交流

表－4 来訪者との交流

	該当者	ある	ややある	「ある」（計）	どちらともいえない	あまりない	ない	「ない」（計）	未回答
実施	39 100.0	18 46.2	9 23.1	27 69.2	5 12.8	4 10.3	2 5.1	6 15.4	1 2.6
過去に実施	12 100.0	1 8.3	7 58.3	8 66.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	3 25.0	0 0.0
計	51 100.0	19 37.3	16 31.4	35 68.6	6 11.8	5 9.8	4 7.8	9 17.7	1 2.0

（上段：度数、下段：構成比）



図－5 近隣住民との交流

表－5 近隣住民との交流

	該当者	ある	ややある	「ある」(計)	どちらともいえない	あまりない	ない	「ない」(計)	未回答
実施	39 100.0	16 41.0	17 43.6	33 84.6	2 5.1	3 7.7	1 2.6	4 10.3	0 0.0
過去に実施	12 100.0	0 0.0	6 50.0	6 50.0	2 16.7	2 16.7	2 16.7	4 33.3	0 0.0
計	51 100.0	16 31.4	23 45.1	39 76.5	4 7.8	5 9.8	3 5.9	8 15.7	0 0.0

（上段：度数、下段：構成比）

これらのことからオープンガーデンという個人の庭（私的空間）の公開により、会員同士や近隣住民、来訪者といった人との交流（コミュニティ形成）が地域の賑わい（地域活性化）の要因にもなっていることがうかがえる（写真－1、写真－2）。

3）環境面での評価

(1) オープンガーデン実施による近隣の花や緑の増加については、「増えた（6%）」と「やや増えた（39%）」と合わせて45%が「増えた」と回答しており、一定の環境面での効果を感じていることがわかる。

(2) 来訪者が訪れ人から見られることによるまちの美化では「美化された（12%）」、「やや美化された（31%）」と合わせて43%が「美化された」と回答している。回答者の43%が「まちの美化」を感じており、(1) と同様に会員は環境面での一定の効果を感じている。

(3) 来訪者のごみ捨てによるまちの景観の損失については、「変わらない（73%）」と「あまり変わらない（18%）」とを合わせて91%が「概ね変化がない」と回答していることから、来訪者がごみをしっかり捨てることでまちの景観が損なわれないと感じている。

(4) 来訪者の騒音（声や車のエンジン音等）による近隣への迷惑に関しては、「迷惑をかけない（22%）」、「あまり迷惑をかけない（35%）」合わせて約6割（57%）が「迷惑」だと感じていない。

4）地域活性化や地域資源としての評価

(1) 訪問者が多く訪れることによる地域の観光資源としての活用については、「活用できる」と回答したのが24%、「やや活用できる」と回答したのが35%で合わせて59%が「活用できる」と回答している。

(2) 訪問者が多く訪れることによる店舗の集客や売り上げの経済的な効果については、「効果がある」が8%、「やや効果がある」が35%で、合わせて43%が「効果がある」と回答している。

(3) 地域の花や緑が増えることによる地域の魅力向上については、「向上した」が10%、「やや向上した」が37%で、合わせて回答者の47%が「向上した」と回答していることから、地域の魅力向上には一定の効果があるといえる。

(4) 地域の花や緑が増えることによるシビックプライド（地域愛）の芽生えに関しては、「向上した（12%）」と「やや向上した（41%）」と合わせて53%が「向上した」と回答していることから（「向上しない」は12%）、シビックプライド（地域愛）向上にも一定の効果があるといえる。

5）私的空間を公開していることへの評価

(1) 庭という個人の空間を公共空間として活用することによる地域環境への影響に関しては、「与えている（33%）」と「やや与えている（39%）」と合わせて72%が地域環境に良い影響を「与えている」と回答している（「与えていない」は2%、図－6、表－6）。

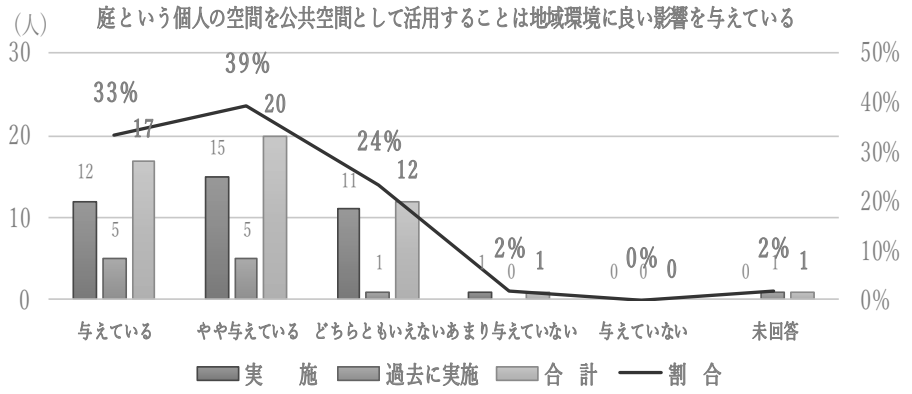
(2) 庭という個人の空間を公開することにより、公共的な視点が生まれ、花や緑などの地域環境を意識するようになったということに関しては、「意識するようになった（43%）」と「やや意識するようになった（37%）」と

写真－1 （左）吉村邸（カルチャータウン）のオープンガーデン
（三田グリーンネット・吉村氏撮影）

写真－2 （右）オープンガーデン（フラワータウン，高木邸）でのコンサート風景
（三田グリーンネット・高木氏撮影）

合わせて80%が意識するようになったと回答している。この結果から個人の庭（私的空間）に他人（一般の方々）を迎え入れることにより、会話等に広く地域環境を含む公共的な話題が生まれ、そのコミュニティが地域環境意識の醸成につながっているのではないかと考えられる（図－7、表－7）。

(3)「来訪者に庭を見てもらえるのが楽しい」に関しては、「楽しい」と回答したのが53%、「やや楽しい」と回答し

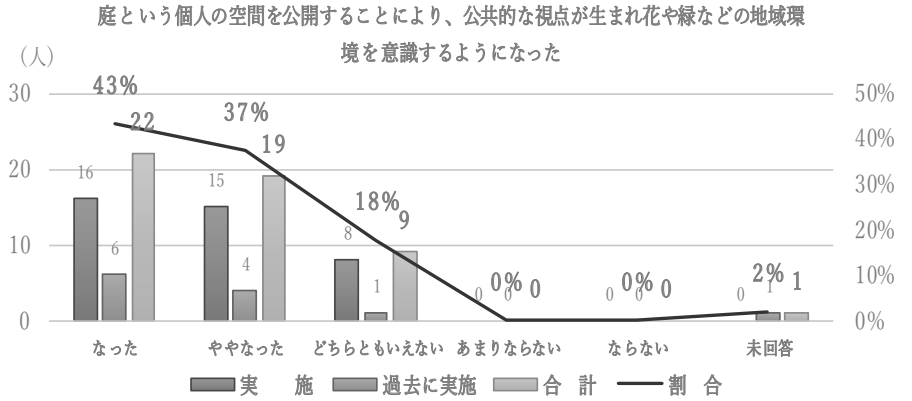


図－6 地域環境への影響

表－6 地域環境への影響

	該当者	ある	ややある	「ある」（計）	どちらともいえない	あまりない	ない	「ない」（計）	未回答
実施	39 100.0	12 30.8	15 38.5	27 69.2	11 28.2	1 2.6	0 0.0	1 2.6	0 0.0
過去に実施	12 100.0	5 41.7	5 41.7	10 83.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3
計	51 100.0	17 33.3	20 39.2	37 72.6	12 23.5	1 2.0	0 0.0	1 2.0	1 2.0

（上段：度数、下段：構成比）



図－7 地域環境の意識

表－7 地域環境の意識

	該当者	ある	ややある	「ある」（計）	どちらともいえない	あまりない	ない	「ない」（計）	未回答
実施	39 100.0	16 41.0	15 38.5	31 79.5	8 20.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
過去に実施	12 100.0	6 50.0	4 33.3	10 83.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3
計	51 100.0	22 43.1	19 37.3	41 80.4	9 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.0

（上段：度数、下段：構成比）

たのが39%と合わせて92%が「楽しい」と回答しており、参加者は私的空間である庭を見てもらうことへの喜びを感じ、楽しみながらオープンガーデン活動を行っていることがわかる（図－8、表－8）。

(4) 来訪者が公開している庭園の「花や緑を傷めたりしてしまう（来訪者への不満）」に関しては、「傷めない(53%)」、「あまり傷めない(24%)」と合わせて77%が「傷めない」と回答している。

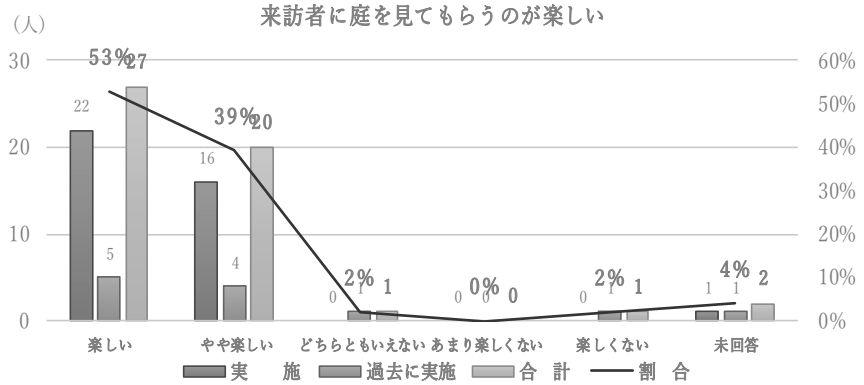
(5) 庭という個人の空間を公開することによる「プライバシーの侵害と防犯面の心配」に関しては、「心配でない（27%）」、「あまり心配でない（45%）」と合わせて72%が「心配でない」と回答している。

これらのことから、個人の庭（私的空間）を一般に公開することへの不安（プライバシー等）よりも参加者の楽しみや地域環境への意識や影響への思いの方が勝っていることがうかがえる。

6）維持管理：オープンガーデンを実施する上での自身の庭園管理や整備などの負担

(1) 発生する費用については、「負担ではない（18%）」と「あまり負担ではない（24%）」と合わせて42%が「負担ではない」と回答しているが、「やや負担である（31%）」と「負担である（2%）」を合わせ33%の人は負担感をもっている。

(2) 毎年、オープンガーデン開催時に発生する費用の具体的な金額については、「1万円未満」24%、「1万円～5万円」47%、「6万円～10万円」20%、「10万円～15万円」

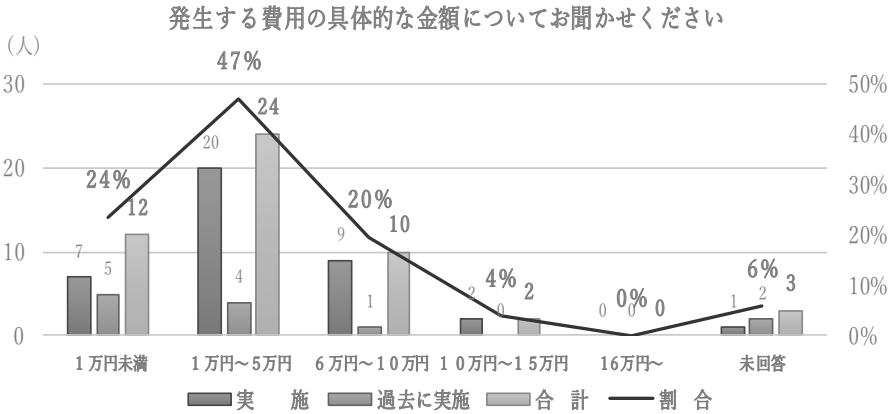


図－8 来訪者にオープンガーデンを見てもらえる楽しみ

表－8 来訪者にオープンガーデンを見てもらえる楽しみ

	該当者	ある	ややある	「ある」(計)	どちらともいえない	あまりない	ない	「ない」(計)	未回答
実施	39 100.0	22 56.4	16 41.0	38 97.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6
過去に実施	12 100.0	5 41.7	4 33.3	9 75.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3
計	51 100.0	27 52.9	20 39.2	47 92.2	1 2.2	0 0.0	1 2.0	1 2.0	2 3.9

（上段：度数、下段：構成比）



図－9 発生する費用

が4%であった（5万以下:71%、10万以下:91%、図－9）。
(3) 維持するための手間（花や植栽の手入れ）については、「負担ではない（12%）」と「あまり負担ではない（27%）」と合わせて39%が「負担ではない」と回答しているのに対し、「やや負担である（39%）」と「負担である（6%）」と合わせて45%が「負担である」と回答している。このことから、負担でないと感じている参加者より負担を感じている参加者が多いことがわかる。
(4) 庭園の除草作業や清掃活動については、「負担ではない（10%）」と「あまり負担ではない（27%）」と合わせて39%が「負担ではない」と感じているものの、「やや負担である（43%）」と「負担である（4%）」と合わせて47%が「負担である」と回答しており、「どちらともいえない」は14%であった。「負担でない」と感じている参加者より負担を感じている参加者が多いことがわかる。
(5)「花や植栽の手入れ、除草、清掃にかける時間は、週にどの位の時間を費やしているか」については、「1時間未満」8%、「1時間～5時間」47%、「6時間～10時間」25%、「11時間～15時間」4%、「16時間～」が10%であった。全体で55%が5時間以内である。

7）私的空間を公的空間として維持するための支援：オープンガーデンを実施する上で期待する自治体支援

(1) 三田グリーンネットへの費用面での支援については、「望む（22%）」と「やや望む（20%）」と合わせて42%が「望む」と回答しており、「あまり望まない（14%）」と「望まない（20%）」と合わせて34%が「望まない」と回答している。「どちらともいえない」は25%であった。三田グリーンネット（団体）への費用面での支援を「望む」回答者が「望まない」回答者より多いことがわかる。
(2) 個人への費用面での支援については、「望む（4%）」と「やや望む（6%）」と合わせて10%が望むと回答しているのに対し、「あまり望まない」と回答しているのが22%、「望まない」と回答しているのが45%で合わせて67%が「望まない」と回答している。「どちらともいえない」は24%であった。このことから個人への費用面での支援を「望まない」回答者が多いことがわかる。
(3) 植栽の種や苗木の支援については、「望む（6%）」、「やや望む（22%）」と合わせて28%が「望む」と回答しているのに対し、「あまり望まない（27%）」、「望まない（29%）」と合わせて56%が「望まない」と回答している。このことから植栽の種や苗木の支援において「望まない」回答者が多いが、「望む」回答者が一定数存在することがわかる。
(4) 庭のデザインや植栽等の技術面での専門家の支援については、「望む（14%）」と「やや望む（18%）」と合わせて32%が「望む」と回答しているのに対し、「あまり望まない（25%）」と「望まない（22%）」と合わせて47%が「望まない」と回答している。「どちらともいえない」は20%であった。このことから庭のデザインや植栽等の技術面での専門家の支援において「望まない」回答者が多いが、「望む」回答者も一定数存在することがわかる。
(5) 庭の除草や清掃のボランティアの支援については、「望む（10%）」と「やや望む（8%）」と合わせて18%が「望む」と回答しているのに対し、「あまり望まない（20%）」「望まない（47%）」を合わせて67%が「望まない」と回答している。このことから、庭の除草や清掃のボランティアの支援はあまり望まれていないことがわかる。
(6) 庭の案内等訪問者へのボランティアの支援では、「望む（10%）」と「やや望む（12%）」と合わせて22%が「望む」と回答しているが、「あまり望まない（24%）」と「望まない（37%）」と合わせて61%が「望まない」と回答している。このことから、庭の案内等訪問者へのボランティアの支援はあまり望まれていないことがわかる。

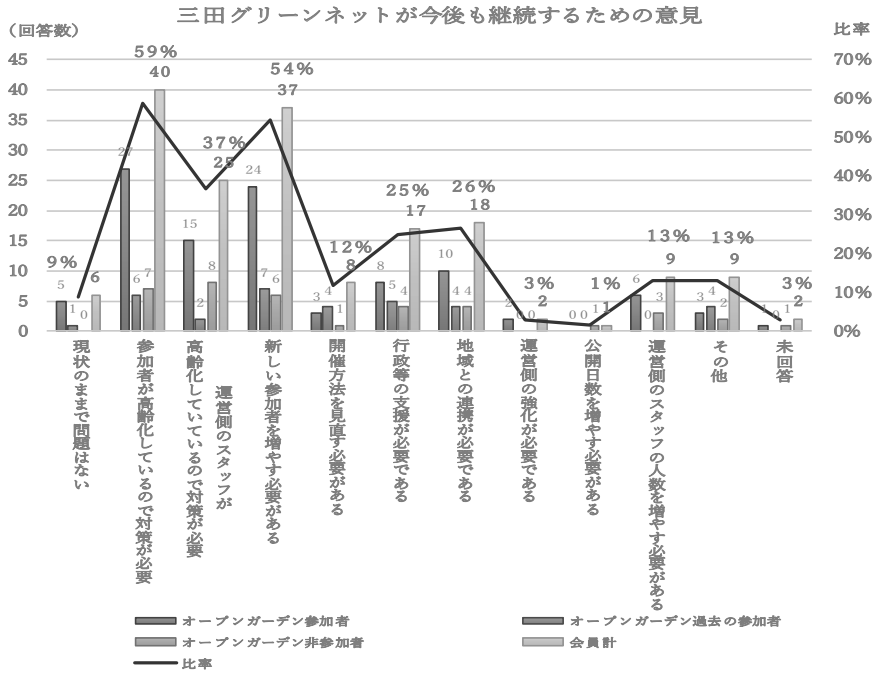
8）持続可能性

オープンガーデンが今後も継続する上での意見（複数選択可）では、一番多い回答が「参加者が高齢化しているので対策が必要」で59%、次いで「新しい参加者を増やす必要がある」54%、「地域との連携が必要である」26%、「行政との連携が必要である」25%であった。実際に参加者が高齢化しており回答者も認識していることがわかる。「新しい会員数を増やす必要がある」では、現在も新たに会員は入会しているが会員が一時期より減っていることが別に行ったヒアリングの中で聞かれたことからも回答数に現れているものと考えられる。「地域との連携が必要である」、「行政の支援が必要である」は、継続性を考えるうえでの会員の気持ちが表れているものと考えられる（図－10）。

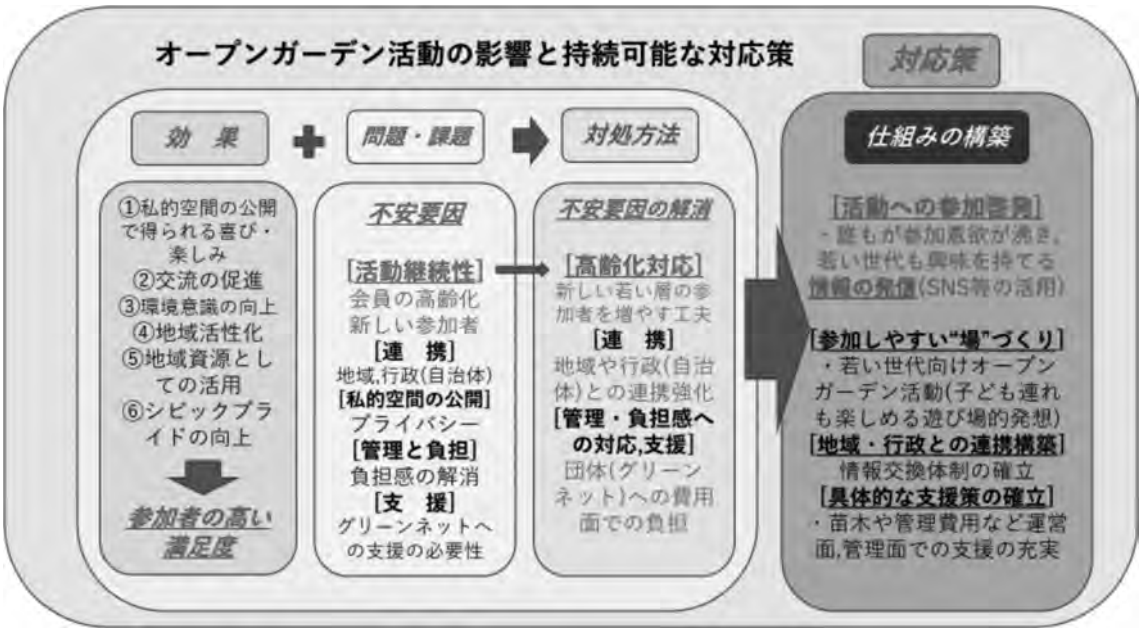
4. 考察

本稿で取り上げた三田グリーンネットのようにオープンガーデンを独自で運営しているところは兵庫県内では珍しいが、緑を活用した公私空間の効果について考える時、オープンガーデンのような私的空間が市民満足度の向上や地域活性化に関して影響を及ぼしてきたのではないかと考えられる。

公私空間の観点からは、オープンガーデンのような私的空間を開放するということに難しさがある一方、本研究よりオープンガーデン活動による効果や直近での問題・課題、方策を体系的に整理することができた（図－11）。



図－ 10 オープンガーデンを継続する上での意見



図－ 11　オープンガーデン活動の影響（効果，問題・課題，対処方法）と持続可能な対応策
（筆者作成）

4.1　オープンガーデン活動による効果

オープンガーデン参加者の評価としては、調査の主な個別項目から下記の 1）～ 4）のように総じて高く、参加者の満足度の高さがうかがえる。こうした個別評価からも、私的空間を開放して得られる喜びや楽しみを通して、そこで他人との交流が促進され、その交流の中から環境意識とともに地域愛が芽生えるという効果の連鎖が生まれると考えられる。

1）私的空間の公開で得られる喜び・楽しみ

個人の庭を見てもらうということに喜びや楽しみをもって参加していることがうかがえた（92%）。今も庭づくりを楽しむ人と知り合うことを目的に参加している人が多く、個人の庭（私的空間）を通して広くコミュニティが育まれている。

2）交流の促進（コミュニティ形成の場としての私的空間の公共空間化）

オープンガーデンを始めるきっかけが「人からの誘い（69%）」が多い中で、「人の交流を求めて（53%）」も多く、私的空間としてのオープンガーデンがその活動により、周辺住民や地域内外の来訪者とのコミュニティ形成の場として有効に機能している。

3）環境意識の向上

地域環境に良い影響を与えていると評価している人も多く（72%）、会員（参加者）の地域環境への意識の向上が認められる（80%）。

4）地域活性化、地域資源としての活用、シビックプライド（地域愛）の向上

近隣で花や緑が増え、まちが美化されたといった環境面での効果を感じている人は半数に満たないが、地域活性化や地域資源としての活用、シビックプライド（地域愛）向上については一定の効果（半数以上）があるものと考えられる。

4.2　問題・課題

1）活動継続性（参加者の高齢化問題の深刻化）

先行研究で明らかにされた参加者の意識や行政支援の必要性について、活動開始以来 15 年が経過する中で、現実問題として当時からの参加者が着実に高齢化していることがうかがえる。アンケート結果においても、今後、オープンガーデンを継続する上で、「参加者の高齢化」が指摘されており（59%）、同時に「新しい参加者を増やす必要」を感じている（54%）。このことは他の団体でのヒアリングからも聞かれている。現時点で、オープンガーデン活動の持続性確保の問題がある中で、高齢者への対応策の必要性も先行研究での支援の必要性に比べると増してきていると言えよう。

2）連携・管理と負担・支援（維持・継続するための地域・行政の連携や管理面での支援の必要性）

個人が負担している維持するための費用については、5 万以下で 71%、10 万以下で 91% という状況であった。参加者はグリーンネットへの支援の必要性を感じている人がある程度（42%）いるものの個人への費用面での支援は望んではいない（67%）が、オープンガーデンコミュニティへの支援の必要性を感じている。

4.3　対応策の提案（仕組みの構築）

1）参加者の拡大と場づくり（新たな参加者、特に若い世代への参加啓発）

アンケート結果でも継続するためには「新しい参加者を増やす必要」を半数以上の人が感じており（54%）、今後、誰もが参加意欲が沸き、特に若い世代に興味を持ってもらえる SNS 等を活用した情報発信や誰もがオープンガーデン活動を楽しむことができるような遊び場的な発想の“場づくり”といった仕組みを構築するなどの工夫が求められる。

2）地域・行政との連携

別に行った三田グリーンネットへのヒアリングでも聞かれた実際の運営面における苦労（資金面や資料作成等）も多くあり、自治体（三田市）へのヒアリングでも聞かれたように、現在では活動の全てにおいて設立当時に比べ三田グリーンネットの負担の割合が大きくなっている。このことからも今後、市民協働の観点からも参加者の求めに応じた今まで以上の地域や行政との関わり（形だけの会議ではなく積極的な情報交換等の連携体制づくり）が求められる。

3）具体的支援策の確立

活動の持続性を保つためにも、参加者個人にだけでなく活動団体（ここでは三田グリーンネット）への苗木や管理費用など運営面・管理面での充実した具体的支援策を構築することが求められる。

5. おわりに

このように三田市における取り組み事例から公私空間としてのオープンガーデンによる効果やオープンガーデン活動をしている方々（団体）が抱えている問題・課題、そして今後の展開を考える上での対応策として考えられるであろうこと（施策）をアンケート調査から体系的に整理することができた。

今後、地域活性化の手法としてのオープンガーデン活動が個人の庭といった私的空間に目を向けながら、公共空間を含めた公私空間として市民協働により地域に展開されることが望まれる。

謝辞

本研究にあたっては、三田市グリーンネットの方々に調査の協力があった。ここに感謝の意を表する。

なお、本研究の調査では一部、平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）を活用している。［研究種目：基盤研究 (C), 課題番号：17K06731, 研究課題名：持続可能な都市空間のための公私計画・マネジメント論の構築及びデザイン手法 , 研究代表者：山田圭二郎］

参考・引用文献（関連研究）

1） 相田 昭・鈴木 誠・進士 五十八（2002）、「英国ナショナル・ガーデン・スキームによるオープンガーデンの発祥と活動」（平成 14 年度 日本造園学会研究発表論文集 20）、ランドスケープ研究 65(5)、pp.393 ～ 396

2） 野中 勝利（2002）、「長野県小布施町におけるオープンガーデンの特徴と課題」（平成 14 年度 日本造園学会研究発表論文集 20）、ランドスケープ研究、Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 65(5)、pp.805 ～ 810

3） 平田 富士男・橘 俊光・望月 昭（2003）、「わが国におけるオープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握に関する研究」（平成 15 年度日本造園学会全国大会 研究発表論文集 21）、ランドスケープ研究、Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 66(5)、pp.779 ～ 782

4） 平田 富士男（2004）、「オープンガーデン活動に対する行政支援のあり方に関する研究―兵庫県における活動実施者のニーズ分析から―」、環境情報科学論文集 18、pp.89 ～ 94

5） 三分一 淳・湯沢 昭・熊野 稔（2007）、「オープンガーデン実施者の開放性に関する意識構造の検討」（平成 19 年度日本造園学会全国大会研究発表論文集 (25)）、ランドスケープ研究、Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 70(5)、pp.391 ～ 396

6） 岩朝 英恵・上甫木 昭春（2007）、「兵庫県三田市におけるオープンガーデンの活動と会員の意識・行動の変化に関する研究」（平成 19 年度日本造園学会全国大会研究発表論文集 25）、ランドスケープ研究、Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 70(5)、pp.657 ～ 662

7） 野中 勝利（2006）、「緑のイベント時におけるオープンガーデンの位置づけ」（平成 18 年度日本造園学会全国大会研究発表論文集 24）、ランドスケープ研究、Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 69(5)、pp.789 ～ 794

8） 朴 恵恩・野中 勝利（2010）、「オープンガーデン活動におけるきっかけと期間を視点とした活動実態からからみた継続性」、日本建築学会計画系論文集 Vol.75 No.648、pp.427 ～ 435

9） 河島 敬・衣川 智久・村田 真穂・上山 肇（2015）、「オープンガーデンがコミュニティ形成に与える影響―長野県小布施町を事例として―」、2014 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、pp.429-432

10） 河島 敬･上山 肇（2015）､「日本におけるオープンガーデン活動に関する研究―活動団体と実施地域及び活動参加者数に着目して―」、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.909 ～ 910

11） 上山 肇・河島 敬（2018）、「水と緑の公私空間論に関する研究 その 3 ―兵庫県三田市のオープンガーデン―」、日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）、pp.627 ～ 628